

# 沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

(112)

石原 昌家

映画「島守の塔」の依頼 月16日、写真真照 には、コメントシリーズを終えようとしたとたん唖然となる。二ニュースが報じられた。〈先島に避難シエルター〉に違いない。

政府検討 有事を想定し石 垣市など複数候補地」の1 というのは、77年前の沖縄面トップ見出し記事(「沖 戦直前、住民が戦争から生 縛タイムス」2022年9 5日)と、ガマ(自然

## 先島に避難シエルター

政府検討 有事を想定

石垣市など複数候補地



県PFA S土壌調査へ 普天間周辺検出受け

シエルター検討を徹底

知事 状況

政府が先島に避難シエルターを検討していること、石垣市長が検討を歓迎したことを報じる琉球新報

## 歴史修正主義を正す⑧

# シエルター報道に恐怖 沖縄戦改ざんの動きも

洞窟)の整備と必死に壕掘りをして「防空壕」のことだ。防空壕をイメージできない若い世代には、映画「島守の塔」のクライマックスとなった軍民混在の自然洞窟内で軍による住民虐殺などが演じられた場所が、いさえ、伊江島住民は米軍のま戦争準備中のヤマト政府のいう避難シエルターだと座り込み行動で撤退させ

非常に重要なことだ。国民保護法に基づいた避難場所や手段、動線などへの具体的対応とあわせて取り組んでもらいたい」と話した(同紙)という。

数字の独り歩き ところで、いま全国のメディアの中には沖縄戦体験を捏造する動きもあからま

想像していただきたい。沖縄選出の国会議員のなかに、沖縄各地のガマを避難シエルターとして整備することを提案しているよう

影りになる記事だ。第二の沖縄戦が現実になりそうだとこの危機感が、私も共同代表の一人であるノーマ沖縄戦命どう

内なる皇国史観 映画「島守の塔」の最後は、実在の島守の塔で大女優川京子さんが扮する山

いま、急を要するのはミサイルが飛び交う前に全知全能を傾け、必死になって戦場化をさける対話を求めることに人事を尽くすこと

21年目の地獄の激戦場から生還した伊江島住民とは異なる、地上戦闘を経験していない地域差なのか。ミサイル基地化を容認している

昨年9月、私は偶然、島守の塔を訪れ、仰天した。沖縄の守り神シーサーのよう

## 危機感の温度差

だが、地元2紙が、政府の避難シエルターを報じた

座喜味一幸市長も「地域住民の不安解消」という点では

15年前、沖縄戦の真実を捏造する政府の動きに抗議

も次回に触れおきたい。(次回)は26日掲載